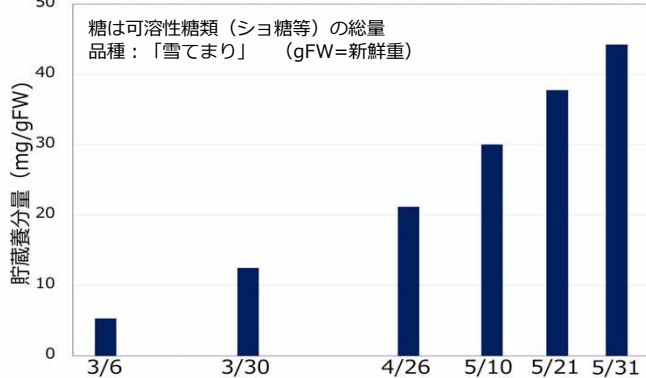


ランキュラス球根の芽は乾燥前に完成し、吸水後は速やかに生長

生産環境部門 村上恭子、野菜・花き部門 藤原亜紀、竹内小百合（現 中讃農業改良普及センター）

乾燥前 球根養成時期の地下部の状態を知り、掘上げのタイミングを見極める

球根養成時期の貯蔵根中の糖含量（貯蔵養分量）



糖は可溶性糖類（シヨ糖等）の総量
品種：「雪てまり」（gFW=新鮮重）



花茎を中心として放射状に貯蔵根ができる（3月27日）



花茎

芽

貯蔵根

貯蔵根

吸収根



3月22日 吸収根があり、地上部は緑

4月25日

5月10日

吸収根が消失 枯れ上がる

- 花茎の付け根に次の芽があり、乾燥して球根の芽となります。この芽を守るため、球根養成時期も防除等の管理が必要です。
- 根の肥大部（貯蔵根）の貯蔵養分は、4月ごろから5月後半まで徐々に増加します。貯蔵養分は茎葉から運ばれます。そのため、地上部が緑色のうちは適度な灌水を続ける必要があります。

乾燥 掘上げ後の速やかな乾燥と保存時の乾燥維持で球根の芽を守る



古い花茎

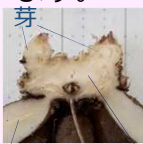
芽

乾燥させた球根

右写真は赤線部の断面

貯蔵根を外した跡

- 乾燥状態の球根には、綿毛の部分と根の部分があります。綿毛は芽の周囲の葉の繊維が残ったもので、綿毛の中に小さく縮んだ芽があります。この繊維を乾燥状態で無理に外すと芽を傷めてしまいます。
- 貯蔵根は容易に外れます。貯蔵根と芽の間には右図のようにクラウンと呼ばれる部分があり、貯蔵根が外れても芽の生育に直接影響はありません。貯蔵根は養分補給庫の役割を持つと見られています。

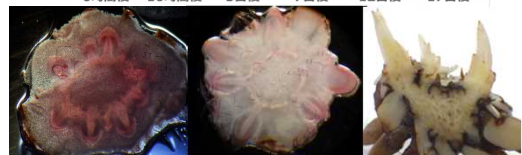
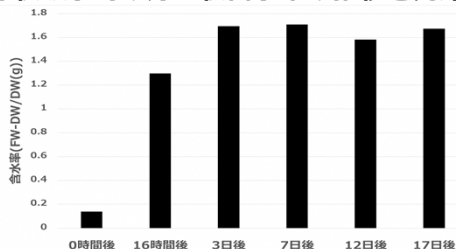


貯蔵根

クラウン

吸水後 芽の生長は吸水開始後すぐ始まり、その速さは温度の影響を受ける

球根吸水時の貯蔵根含水率の推移と発芽の様子



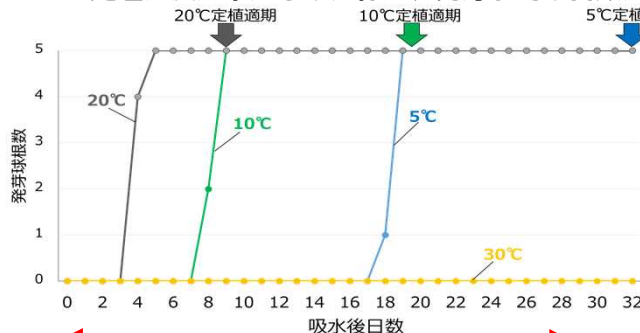
吸水開始6時間後

吸水開始7日後

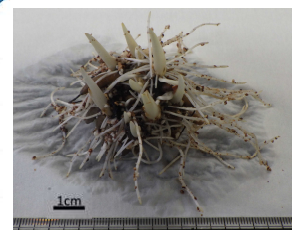
吸水開始12日後

(処理温度10℃)

処理温度が下がるのに伴い、発芽までの日数が長くなる



促成栽培に必要な低温処理期間（約4週間）



定植適期の状態

- 吸水開始6時間後には早くも幼芽の内部で根が伸び始めています（左写真：赤い染色部分）。
- 発芽が確認できるころのクラウンは、筋張って少し収縮しています。
- 適期に定植するため、温度を調整して芽の生長を制御してください。
- 切り花用の冷蔵庫を利用する場合、庫内の位置で温度が異なります。お持ちの冷蔵庫内の位置や高さごとの温度を確認し、うまく利用してください。